

2022年第3回

定期会報告

公立中学校の部活動を地域へ移行

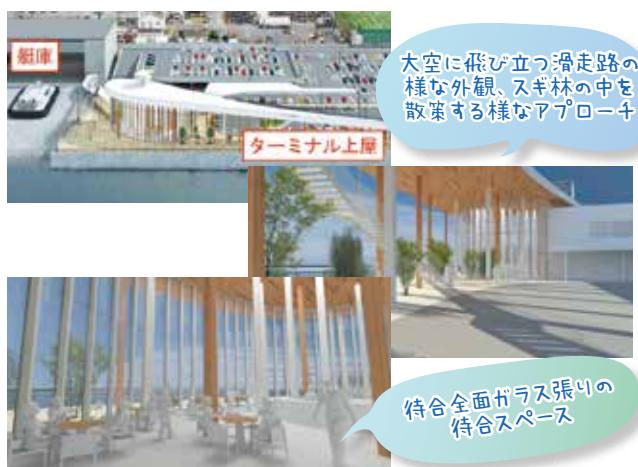
教職員の過度な負担や少子化による部員不足により、学校単位の部活が困難になるケースもあることなど制度の限界が顕在化していることから、文部科学省は、2023年からの3年間で、まず公立中学校の休日の部活動の運営主体を段階的に地域に移す方針を発表しています。

この部活動の地域移行について、代表質問において県民クラブの木田昇議員【大分市選出】が県教委の見解を尋ねました。

岡本天津男教育長は、「各市町村教育委員会へ情報提供するとともに、検討委員会を設置し地域の実情に応じた移行のあり方を検討するよう助言している」と答えました。

ホーバー旅客ターミナルの イメージ図が公開されました

今定例会では、西大分地区に建設するホーバー旅客ターミナル新築工事契約案を可決。県からはそのイメージ図が公開されています。また、ホーバー船体のラッピングデザインも募集されました。



私のHPにも議会活動・活動報告を掲載していますので御覧下さい。

セキュリティ強化のため、HPのアドレスが変わりました

大分県議会議員 原田たかし

○ 檢索

檢索

<https://harada-oitakengi.com/>

全数把握の見直しと 独自の仕組みを導入

現在、大分県では、入院病床を535床、宿泊療養施設を1,370室と過去最大数を確保していると報告しています。この宿泊療養施設の活用と、自宅療養もできるだけ行っていただくことで、医療関係者の負担軽減に努めていくとのことです。

政府はこれまでの全数把握から、把握を高齢者ら重症化リスクの高い患者だけに限定し、軽症者が自宅療養中の体調急変時に相談ができるフォローアップセンターを全都道府県に設置すると発表しました。

新規感染者の全数届出見直し後のフロー図

赤字は県独自の対応

大分県でも全数把握を見直し、自分で検査して陽性が判明した方や届出対象外の陽性者の方も、新たに開設する24時間体制の健康フォローアップセンターに登録をすれば、支援を受けることができるという独自の仕組みを整えていくとしています。



なぜか感染者数の多い九州!!?

感染状況で私が気になるのは、九州は人口10万人あたりの累計感染者数が多いことです。全国上位10位までに、長崎県（14位）と大分県（17位）以外の全ての県が入っています（2022.9.26現在）。

東京や大阪など大都市圏での新規感染者数が多いことだけが注目されがちですが、九州でなぜ感染者が多いのか専門家でもよく分からぬとのことです。ワクチン接種やマスクや手指消毒など各自で感染対策に取り組んでいくしかないようです。



原田たかし後援会への加入をお願いします

原田たかし後援会への加入をお願いしています。年会費は1家庭1,000円です。加入していただいた方へは、年4回発行しています「原田たかし会報」と県民クラブ会報「県民たかろーず」をお送りいたします。御連絡をお待ちしております。

原田たかし後援会 ☎0977(25)0011

三874-0838 別府市莊園町3組の3 原田たかし・事務所内